

え

え

え

ええ

ええ

ええええ

胞(名)

えな。

枝(名)

えだ。

兄(名)

あに。

得(副)

得ざるの意にて打消助動詞すぬと同時に用ひらるゝもの。……たさへば「えゆかず」は「行くを得ず」の意。物え書かいぬ人」は「物書くを得ざる人」の意。

餌(名)

〔一〕飼ひ置く鳥獸虫魚に與ふる食物。●ふさ。〔二〕鳥獸など誘ひ寄せて捕ふる爲めの食物。●置餌。●ふげ。

會(名)

多人數集まりて行ふ儀式。祭禮佛事の類。○「大嘗會」「節會」「法華會」「維摩會」「万燈會」「放生會」源氏「御法の會」榮花「御堂の會」

繪(畫)(名)

紙、絹、板の如きものに筆の類を以て寫し出だしたる物の形。

(感)

文句のの終に置く感詞。なもやなどの類。○萬葉「山の端にあぢむらさきわき行くなれど我はさぶしゑ君にしあらねば」同「たらちねの母に知らえず我もてる心はよしゑ君がまに／＼」

喉音の一つにして元はうえの二音合して成りたるもの。故に之を復母音と稱す。始はうえの如き發音なりしか、今ははと異なる處なし。惠の字の草體放「めぐみゑ」も五十音圖によりてわ行のゑとも稱へらる。う音に續く時はようと發音せらるゝ事えの如し。

江(名) 川の末の海に接して廣くなりたるところ。
柄(名) 物の手に把りて持つ處。○「長刀の柄」「庖刀の柄」「傘の柄」
えのき。

荏(名) 草の名。實より油を取るもの。●荏胡麻。

へ

(名) 上の略。○「岩のへ」尾のへ」(歌詞)

へ

(名) 家の略。○「人のへ」おのがへ」(歌詞)

へ

(重名) 重なり。●へだり。○「九重」五百重」

へ

(後) の方に。●に向ひて。○古今「北へゆく雁ぞ鳴くなるつれて來し數は足らでぞ歸るべりなる」

えい

裔(名) 子孫。●後胤。

えい

營(名) 陣屋。●兵營。●鎮壁。

えい

纓(名) 冠の巾子の後に垂れたるもの。鯨にて縁を作り中に薄絹を張る。

えい

詠(名) 「一」歌詩を作る事。●作「二」よみたる和歌。「三」舞樂の中にて舞人の詩句を吟ずる事あり其稱へ。○源氏「詠果て袖打ち直し給へるに」

えい

榮(名) 「一」さかえ。●繁昌。●榮花。「二」榮譽。●名譽。●面目。

えい

鰐(名) 魚の名。比目魚に似て丸く刺ありて敵を刺すもの。

えい

醉(名) 醉ふ事。

えい

(感) 打ち合ひ又は切り合ふ時の掛聲。(狂言)

えい

えい

えい

えい

えい

えい

えい

えい

えい

えい

えい

えい

えい

永住(名) 永久に住居する事。●ハ(動)―永住す。

えい

榮利(名) 榮譽と利益。

えい

營利(名) 利益を謀る事。

えい

銳利(名) 銳き事。△(形)―銳利なる。

えい

繪入(名) 書物新聞等に挿畫のある事。

えい

歟慮(名) 天皇の思召。●宸慮。●宸襟。●宸衷。

えい

詠歌(名) 「一」和歌を詠ずる事。「二」詠じたる和歌。

えい

歟感(名) 天皇の御感。

えい

銳角(名) 幾何學上の詞。直角よりも銳き角度。

えい

榮譽(名) 尊榮なる名譽。

えい

永代(名) 永き後の代。●永世。●永久。△(形)―永代の。(副)―永代に。

えい

英斷(名) 優れたる分別。●英邁なる決斷。

えい

詠草(名) 和歌の草稿。

えい

永續(名) 永く續く事。●繼續。△(動)―永續す。

えい

醉泣(名) 酔ひて泣く事。悲しきにも嬉しき

えい

えい

えい

えい

えい

えい

えい

えい

えい

えい

えい

えい

にも。

観覧(名) 天皇の御覧。●天覧。

えいらん
えいらくやき

永樂焼(名) 陶器の一種。明朝永樂年中製作のものに摸して我文化年中に善五郎丁

全の焼き初めしもの。

えいらくせん

永樂錢(名) 錢の一種。支那にて明朝の永樂年中に鑄たるもの。我國にては近古以來行はれたり。

えいく

影供(名) 神佛又は貴人の肖像の前に物を手向けて祭る事。

えいくわなう

榮光(名) 神の榮え。(基督教)

えいぐ。

榮華(名) (一)時に遇ひて榮ゆる事。●さきめく事。●繁榮。●榮耀。(二)贅澤。●奢侈。

えいや

(感) 力を出だす時の掛聲。

えいぶん

英文(名) 英語の文章。●英國の文章。

えいぶん

叡聞(名) 天皇の御聽。

えいこ

榮枯(名) 繁り榮ゆる事と衰へ枯るゝ事と。●盛衰。●興廢。

えいごゑ

(名) 力を入るゝ掛聲。

えいえいおう

(感) 古へ軍陣にて揚ぐる鬨の聲。

えいえいゑゑ

(名) えい聲に同じ。

えいさら

(感) 力を入れて車など挽く時の掛聲。(讀曲)

えひいざめ

醉醒(名) 酔の醒むる事。

えいき

盈虚(名) 月の満つるゝ虧くるゝ。

えいきよく

郢曲(名) 朗詠の一名。

えいきよく

永久(名) 永く久しき事。●永遠。△(形)——永久の。(副)——永久に。

えいゆう

英雄(名) 普通の人より優れたる人。●世にも稀なる大人物。●豪傑。

えいみん

永眠(名) 永く眠る事。●死去。(基督教)

えいし

詠史(名) 詩歌の題にいふ詞。歴史上の事蹟又は人物を詠じたるもの。

えいじ

嬰兒(名) 幼なき小兒。●綠兒。

えひいしる

(自動下二段) 酔ひて前後を忘却する。

えいびん

銳敏(名) 性質の鋭くして敏捷なる事。

えいせい

衛星(名) 天文學上の詞。他の遊星に附隨して太陽を周る星。

えいせい

永世(名) 永き後の世。●永代。△(形)——永世の。(副)——永世に。

えいせい

睿聖(名) 陛下の高徳を頌し奉る詞。

えいせい

衛生(名) 生命を衛り大切にすること。又は其

法。●養生。●攝生。

えいせん

永錢(名) 永樂錢。

えいぜん

營繕(名) 「一」建物などのつくり。●修繕。

えいず

●修覆。●營繕を管理する役人。

えいず

詠(他動サ變) 「一」吟する。●詩歌を作る。

えいず

映(自動サ變) 物の形のうつりて見ゆる。●反

えらふそく

射する。

えらふそく

繪蠟燭(名) 蠟燭の一種。美しく繪をか

えは

餌(名) 「一」鳥獸虫魚を我方に誘ひ寄する爲めの

えはち

餌。●轉じて人を誘ひ寄する材料。

えはつ

衣鉢(名) えはつに同じ。

えはつ

衣鉢(名) 「一」佛家にて師匠より弟子に傳授す

えはつ

る衣と鉢。●轉じては其傳授する道。

えはつ

緣(佛敎)

えに

緣(名) えんに同じ。ゆかり。●雅)

えにかはり

惠目(名) 佛の惠を日光に喩へて云ふ。●佛敎)

えにし

繪膠(名) 繪具を溶かすに用ふる膠。

えにす

槐(名) えんに同じ。●雅)

えほん

繪本(名) 繪入の本。繪のかきてある本。

えはほう

惠方(名) 歲德神のまします方角。世俗此方角

えはほう

に向ひて事をすれば吉きて正月にはすべて

えはほう

之を尊ぶ。

えはほう

烏帽子(名) えはほうに同じ。

えはほう

烏帽子(名) 「一」古へは貴賤とも頭に被りたる

えはほう

袋やうのもの。●轉じて裝束の時頭に被

えはほう

るもの。

えはほう

烏帽子折(名) 烏帽子を造るを業とする

えはほう

人。

えはほう

烏帽子親(名) 「一」公家元服の時。初めて

えはほう

冠を着さする人。特に此役を重んじて目上

えはほう

の人に頼むを習ふ。●轉じて武家にて

えはほう

も元服の時ばかり剃刀を當つる人。

えはほう

烏帽子掛(名)

えはほう

折烏帽子の上より紐を掛けて着

えはほう

る事。●頂頭掛。

えはほう

烏帽子子名(名) 元

えはほう

服の時幼名を廢して新に付くる名。

えはほう

笑ふ聲。



えと

(名) 兄弟えとの意。◎干支。

えと

(名) 糞。(宇治)

えと

(穢土)(名) 穢れたる世。●汚濁世界。●此世。(佛教)

えとばらひ

江戸拂(名) 徳川時代刑罰の名。江戸の地

を退去せしむるもの。

えとり

穢取(名) 穢多。●皮剥。

えとる

(他動四段) 色取る。●彩色する。

えとむらさき

江戸紫(名) 紫染の一種。江戸にて染む

る殊に色よきもの。

えとらう

繪堂(名) 繪馬堂に同じ。

えとらた

江戸唄(名) 長唄の一名。京大坂にて云ふ詞。

えとく

會得(名) 得心。●合點。●納得。●了解。△

(動)——會得す。

えとろ

繪所(名) 古へ禁中にて繪畫の事を掌りたる

役所。御用畫師の出仕せしところ。

えとゑ

江戸繪(名) 〔一〕江戸にて出来る錦繪。〔二〕浮世繪。

えとさ

繪解(名) 繪の解釋。●圖解。

えとちちみ

越後縮(名) 越後名産の縮。

えとく

繪軸(名) 繪の掛軸。

えとじし

越後獅子(名) 獅子舞の一種。◎越後の國

蒲原郡の神社にて演ずるものより出でたる

えとせんけ

故の名。

越前家(名) 徳川時代。大名家格の一つ。越

前中納言秀康の子孫の家筋。

えり

襟(領) 領(名) 〔一〕衣類の首に接する處。〔二〕首の

後。〔三〕洋服を着る時シャツに附くるもの。

●カラ。

えりいた

彫板(名) 版木。

えりぬく

選抜(他動四段) 選び出す。●撰抜する。

えりたてころも

領立衣(名) 僧衣の一種。僧綱の着る

領の立ちたる衣。

えりくづ

撰屑(名) 撰び滓。

えりくび

領首(名) 〔一〕首の後ろ。〔二〕衣の襟の後ろ。

えりまき

襟巻(名) 寒氣を防ぐ爲に首に巻く毛織物の

類。

えりぬ

狗(名) 犬の子。(和名抄)

えりころ

(名) えのに同じ。

えり

彫(他動四段) 彫り付くる。●彫刻する。

えり

(他動四段) 撰ぶ。●撰擇する。

えりち

兄伯父(名) 父の兄。●伯父。

えりわらふ

(自動四段) 笑みわらふ。狹衣)

えりか

會下(名) 未だ一寺を持たずして學寮にある僧。

ゑが

垣下(名)

ゑんかに同じ。○源氏「ゑがの親王た

ゑがち

得勝(名)

知った風。●きいたふう。(枕)

ゑがほ

笑顔(名)

笑みを含みたる顔。●にこ顔。●わらひ顔。

ゑがらし

(形。形状言ク活)

味のゑぐゝして辛き。

ゑがく

畫(他動四段)

畫に寫す。

ゑよぼろ

役丁(名)

賦役に出づる丁男。

ゑやう

繪轡(名)

下繪。●圖案。

ゑえう

榮耀(名)

榮花に同じ。

ゑた

穢多(名)

人民の最下級に位して牛馬の皮剥など

を職させし一種の賤民、現今は普通平民の籍に編入せられたり。

えだ

枝(名)

「一」草木の幹の分れ出でたる莖の長きも

の。「二」總べて本體より分れ出でたるもの。

○「枝川」「枝社」「三四肢。

えだは

枝葉(名)

「一」枝と葉と。「二」主たる事柄と縁

の遠き小事。

えだち

役(名)

官の課役に當たりて人夫に出づる事。

又は其人。

えたりやおと

(副)

弓を射當てたる時の掛聲。●す

えたる

柄櫓(名)

べて敵を討ち留めたる時の掛聲。

えたあふッぎ

枝扇(名)

古へ禮式の時木草の枝を手に

持ちて扇に代用したるもの。(枕)

えたがは

枝川(名)

川の分れ。●支流。●分流。

えたがき

枝柿(名)

枝に付きたる柿の實。

えたがみ

枝神(名)

末社として祀らるゝ神。

えたつ

役(自動四段)

官の課役に當たりて人夫に出づ

る。

えだつ

役(他動下二段)

えだゝしむる。

えだやしろ

枝社(名)

末社。

えだまめ

枝豆(名)

枝ながら茹でなごして食ふやうに

取りたる大豆。

えだざし

枝差(名)

枝の差し出でたる様子。●枝振。●

木振。

えだみち

枝道(名)

道より分れたる小道。

えだもせに

(副)

枝も狭きほど一ぱいに。○夫木「山

賤が簀戸の高垣枝もせに夕顔なれりすがひ

く」

えだずみ

枝炭(名)

炭の一種。躑躅の枝など焼きて造

えそらごと

り茶の湯に用ふるもの。
繪空事(名) 繪は多く實物と相違したる事
ないく物との意。

えさう

繪像(名) 神佛および古人などの肖像の繪。

えさうし

繪草紙(名) 「一」繪入の本。「二」錦繪の類。

えそぎく

蝦夷菊(名) 草の名。菊に似て紫白赤など秋
の頃美しく咲くもの。

えつ

繪圖(名) 「一」圖に同じ。「二」繪に同じ。

えつぼ

笑壺(名) 笑ひ興する眞最中。

えつり

るもの。「一」屋根を葺く下地。竹など結び並べた
るもの。「和名抄」「二」壁を塗る下地。竹を
縦横にわたしたるもの。

えつる

柄絃(名) 軍隊用の旗の一種。(圖)

えつつみ

兄鼓(名) 大鼓の一名。
おまつみ

えつく

餌付(自動四段) 飼鳥の餌を食ひ



はじむる。

えつぐ

(自動四段) 嘔吐する。

えっけん

謁見(名) 貴人に對面する事。●御目見。●

拜謁。△(動)——謁見す

えつき

役調(名) 役と調さ。

えす

謁(自動サ變) 貴人の御目に掛かる。●謁見する。

えな

●拜謁する。
胞衣(名) 胎兒を被ふ膜。出産の時共に出づるも
の。

えななけ

胞衣桶(名) 胞を入れて土中に埋むる爲めの
桶。

えならす

(副) たゞならず。●ぬもいはれず。●言ふ事
も出来ぬほど。○徒然「笛をぬならず吹き
すぎたる」△(形)——ぬならぬ。

えなく

(自動四段) うなる。●うめく。(新撰字鏡)

えら

鰓(名) 魚の鰓。

えらむ

選擇。撰(他動四段) へらぶに同じ。

えらぐ

(自動四段) 喜び楽しむ。●歡樂を極むる。○
記「汝が命にまさりて貴き神いますが故に
へらぎ遊ぶと申しき」

えらぶ

選擇。撰(他動四段) 多くの中より取り出だ
す。●へる。●よる。●撰擇する。

えらえらに

(副) へらぎつゝ。●歡び樂しみつゝ。●
萬葉「えら／＼に仕へ奉るを見るが尊さ」

えらみ

選擇。撰(名) へらびに同じ。

えらし

(形。形狀言ク活) 「一」甚し。●大そうな。●大
なる。「二」強し。●すぐれたる。●きつい。

……(俗)

えらび

選。撰。擇(名)

むらぶ事。●選擇。

えび

笑。咲(自動四段)

「一」笑を含む。●笑顔する。●

にこ／＼する。「二」花の咲く。「三」莫物な

ごの熟して自然と穀の割るい。

えん

家の端にある板敷。●椽側。

えん

へり。●端。●邊。

えん

「一」因縁を見よ。(佛教)「二」ゆかり。●

たより。●ちなみ。「三」親類の續き合ひ。

「四」夫婦の契り。

えん

衍文の略。

えん

つや／＼しき事。●美しき事。●風流なる

事。花やかなる事。●色めく事。●あだ／＼

しき事。△(形)―艶なる。○源氏「雪うち散

りてゆくなるたそがれごき」(副)―艶に。○

源氏「えんに好ましき事は目につかぬ處あ

るに」

えん

酒盛。●酒宴。

えん

無實の罪。●ぬれぎぬ。●無き名。

えん

「一」丸き形。「二」現行貨幣の單位。百錢。

えん

遠路(名) 遠き路。

えんろ

沿路(名) 沿道に同じ。

えんば

遠馬(名) 馬上にてする遠足。●遠乗。

えんばい

鹽梅(名) 「一」梅干。「二」食物の鹽加減。●

あんばい。「三」すべて物事の味び。○え

んばいのある歌ひ方」

えんにち

緣日(名) 其神佛に緣故ある祭禮の日。

えんいん

延引(名) のび／＼になる事。●期に後るゝ

事。△(動)―延引す。

えんばう

遠方(名) 遠き場所。●遠地。

えんべい

援兵(名) 援けの兵。●援軍。

えんべん

緣邊(名) 緣に同じ。

えんどう

烟突(名) 西洋風の煙出。

えんどう

煙筒(名) 煙出の筒。

えんたう

遠島(名) 「一」陸地より遠く離れたる島。

「二」特に後鳥羽院の遷幸ありたる隠岐の

國。●遠島歌合。「三」徳川時代の刑罰。遠島

へ遣す流罪。

えんどう

豌豆(名) 豆の一種。蔓草にて春藤に似たる

紅の花咲き夏の初め莢に包まれたる丸き實

を結ぶもの。實は生又は干して食用とす。

えんだう

沿道(名) 過ぎ行く道筋。

えんだう

庭道(名) 地上又は階上廊下などに庭を敷き

て通路としたるもの 貴人の御通行などの
處にする事。

えんどうまめ

(名) 豌豆に同じ。

えんち

延長(名) 「一」長く延びたる事。「二」延

びたる其長さ。

えんり

厭離(名) 此世の苦を厭ひて離るゝ事。△(動)

——厭離す。(佛教)

えんり

遠慮(名) 「一」遠き思ひ量り。●先きくまで

の考へ。「二」懼り慎しむ事。●謙遜。●辭

退。「三」徳川時代刑罰の名。他行せずして

謹慎し居らしむるもの。

えんるゐ

縁類(名) 縁續き。●縁者。●親類。●縁家。

●姻戚。

えんるい

遠類(名) 遠縁の親類。

えんか

縁家(名) 婚姻によりての親類。●縁類。●姻

戚。

えんが

垣下(名) 響應の時の相伴役。○源氏「ふんかの

親王たち上達部大變に劣らず」

沿海(名) 海に沿ひたる土地。

えんかい

(自動四段) 艶なる事を好む。●艶なる様子

えんがは

椽側(名) 椽に同じ。

えんがん

沿岸(名) 水邊に近き土地。

えんかく

沿革(名) 時代に從ひて生ずる政治人情風俗

等の遷り變り。●變遷。

えんかく

遠隔(名) 遠く隔たる事。

えんかく

椽覺(名) 佛教にて佛より四番目に位する境

界の階級。人階より三番目上位なり。……十

界を見よ。

えんだい

椽臺(名) 椽側の如く造りたる臺。腰掛又は

納涼臺などに用ふるもの。

えんだつ

艶立(自動四段) えんがらに同じ。(雅)

えんだん

縁談(名) 縁組の相談。●結婚の申込。

えんれい

艶麗(名) 艶やかに麗はしき事。△(形) 一艶

麗なる。(副) 一艶麗に。

えんぞ

艶書(名) えんしよに同じ。(雅)

えんぞく

遠足(名) 運動の爲めにする遠行。△(動) 一

遠足す。

えんぞあはりせ

艶書合(名) えんしよあはせに同じ。

えんづく

縁付(自動四動) 嫁又は婿に行く。●片付く。

●嫁する。●さつぐ。

えんづく

縁付(他動下二段) 縁付かする。●片付くる。

えんねん

延年(名) 延年舞の略。

えんねんのまひ

延年舞(名) 近古以來行はれたる僧家の歌舞。興福寺などにて傳へられしもの。移りては普通の少年も舞ひたり。之をば兒延年と稱ふ。

えんらい

遠來(名) 遠方より來る事。○「遠來の酒」

えんあ、う

鷺鷥(名) をしごりに同じ。

えんあ、うのすま

鷺鷥姿(名) 鷺鷥は常に雌雄離れず睦まじく住む鳥なれば之に喩へて夫婦共寝する姿をいふ。

えんのざ

宴の座(名) 古へ禁中にて宴を公卿に賜はりし時おのゝ其着すべき座。

えんく、い

宴會(名) 酒宴の爲めの會合。

えんく、つ

圓滑(名) 人と人又は國と國との間柄などの滑らかに丸くゆく事。△(形)——圓滑なる。

(副)——圓滑に。

えんぐん

援軍(名) 援けの兵。●援兵。

えんぐみ

縁組(名) 夫婦の縁を結ぶ事。

えんま

閻魔(名) 地獄の王。佛教。

えんまん

圓滿(名) 充ち満つる事。●完全。△(形)——圓滿なる。(副)——圓滿に。

えんけい

遠景(名) 遠くより見たる景色。●遠望。●遠見。

えんげい

演藝(名) 遊藝を演じ行ふ事。

えんげい

園藝(名) 庭園庭樹などを造る藝術。

えんげに

艶氣(副) 艶なるやうに。●はなやかに。●色めかし。●あだ／＼しく。(源氏)

えんけん

遠見(名) 遠くより見たる有様。●遠望。●遠景

えんげき

演劇(名) 芝居。

えんぶ

振鈴。厭舞。遊舞。延舞(名) 舞樂の最初に奏する舞。左右の舞人一時に鈴を振り舞ふもの。

えんぶ

園浮(名) 園浮提の暑。○此世。●人間界。●婆娑。

えんぶだい

園浮提(名) 園浮は木の名。提は洲の梵語。園浮樹の多く繁茂せる土地との意。○(一)須彌の西洲の一つ。(二)轉じて我々の住む現世界。●此世。●人間界。●婆娑。(佛教)

えんぶだこん

園浮提金(名) 園浮提の園浮林中に河あり

りて其處より出づる金砂の名。(●)佛教)

えんぶん

鹽分(名)

鹽氣。

えんぶん

鹽聞(名)

あだ／＼しき評判。

えんぶん

衍文(名)

書物などに誤りて入りたる無用の

文字章句。

えんぶん

艶文(名)

艶書に同じ。

えんこ

緣故(名)

ゆゑよし。●わけ。●たより。●ち

なみ。

えんご

緣語(名)

和歌の詞に緣故ある同音の文字を用

ふるをいふ。たゞへば「置くさ見し露もあ
りけりはかなくて消ぬにし人を何にたゞへ
ん」といふ歌の消ぬの文字は露の緣語にて
用ひたりといふの類。

えんこう

猿猴(名)

「一」猿の類の總名。「二」猿の一種

にして手の自由に伸縮するといふもの。

えんかう

遠行(名)

「一」遠く行く事。「二」死去。

えんごく

遠國(名)

遠き國。

えんえき

演繹(名)

論理學上の詞。歸納の對。一の原

理に據りて他を推論するもの。△(動)―演
繹す。

えんてい

園丁(名)

庭師。●庭作り。●植木屋。

えんてん

炎天(名)

炎暑の頃の空。

えんざ

宴座(名)

宴の座に同じ。

えんざ

圓座(名)

圓形の敷物。菅、蒲、藁な

ぎにて編みたるもの。●わらふ

だ。(圖)

えんざい

冤罪(名)

無實の罪。

えんざん

鹽酸(名)

藥品の名。鹽素と水素との化合物

にして醫藥用工業用共に必要なるもの。

えんざん

鉛槧(名)

文事。●文筆。●文墨。●筆硯。●

操觚。

えんざん

遠山(名)

遠き山。

えんき

延期(名)

期限を延ばす事。△(動)―延期す。

えんき

冤鬼(名)

冤罪の爲めに殺されたる人の怨靈。

えんき

緣起(名)

神社佛閣の其地に建立せられたる由

緒來歴。

えんぎ

延喜(名)

吉凶の辻占。●目出度き辻占。

えんぎ

演義(名)

事實を敷衍して面白く説き語る事。

えんきどく

宴曲(名)

宴遊の席などにて用ふる一種の歌

曲。近古の頃に行はれしもの。

えんぎやギョうだう

しつゝ行道する事。○盛衰、徒然のあまりに

縁行道(名) 縁側を誦經念佛など



猶椽行道しておはしけるか」

えんぎらく

延喜樂(名) 雅樂の曲名。

えんゆ

緣由(名) ゆゑよし。●ゆかり。●たより。

えんいろうかい

園遊會(名) 近頃行はるゝ洋風の饗宴。庭内所々に飲食品を備へて客の好みに随ひて饗應するもの。

えんめい

延命(名) 壽命を延ばす事。●延壽。●延齡。

えんじ

臘脂(名) 「一」化粧品の名。●に。「二」繪の具の名。生臘脂。

えんじ

遠寺(名) 遠方の寺。

えんしよ

艷書(名) 色文。●懸想文。●痴話文。

えんしよ

炎暑(名) 暑さ。●極暑。

えんしよ

炎上(名) 内裏および神社佛閣などの火災に罹かる事。△(動)―炎上す。

えんせしう

延焼(名) 火の手の強くして四方に燃は廣がる事。△(動)―延焼す。

えんせしう

焰硝(名) 「一」硝石。「二」硝石などにて製したる火藥。

えんじやしう

遠情(名) 遠くまで思ひやるこゝろ。

えんしよあはせ

艷書合(名) 試に書きたる艷書を歌合の如く合はせて左右互に優劣を競争せし

中古の雅遊。

えんじや

緣者(名) 緣續きの人。●緣家。●親類。

えんじや

槐(名) 木の名。葉は藤の如く豆に似たる實を結ぶもの。材は手斧の柄などに作る。

えんししうふ

演習(名) 實際に行ひて習ふ事。●練習。△(動)―演習す。

えんししうりう

遠州流(名) 茶道および活花の流派。小堀遠江守政一を祖とするもの。

えんび

燕尾(名) 「一」上古冠の名所。後に垂れたる二筋の紐。……後に云ふ纒に同じ。「二」燕尾服の略。

えんびふく

燕尾服(名) 洋風禮服の名。後の裾を燕の尾の如く切り割きて作れるもの。

えんせい

厭世(名) 人世を厭はしく思ふ事。

えんせい

遠征(名) 「一」遠き所に征伐に赴く事。「二」冒險事業などにてする遠行。

えんせい

遠逝(名) 死去。演説(名) 公衆に對して我議論を述ぶ事。△(動)―演説す。

えんせき

宴席(名) 酒宴の座席。●酒席。槐(名) えんじやに同じ。

えんず

えんず

怨(他動サ變)

「一」うらむ。●恨を述ぶる。

恨めしく言ふ。○空穂「此月頃えんじ給ひて」「二」口にて恨む。●いやみをいふ。○源氏「上これなばすさめたりさけしきざりえんじ給ひしこそをかしかりしか」

えんする

淵醉(名)

節會などの餘興として行はるゝ小宴。……五節の宴醉は寅の日殿上にて行はる。此時朗詠今様などあり。

えふ

醉(自動四段)

「一」酒精質の飲料の爲めに心の亂るゝ。「二」船、駕籠、車などにゆられて心地あしくなる。

えのぐ

繪具(名)

繪を彩色するに用ふる色料。

えのき

榎(名)

木の名。丈高く葉は棕に似て秋の初め丸く小さき實を結ぶもの。實は小鳥など常に好みて食ふ。

えぐ

(名)

草の名。芹の類。古へ摘みて食ひたるもの。……顯昭の説に「花はすはまに咲きて水邊にあり。芹に似たる草なり」千蔭の説に「東國にてよこさいひ土佐人はゑぐさいへり。葉は蘭に似て小さく根は白く小さき芋ありて味すこしゑぐし。俗に黒くわんさいふも

えくぼ

醫(名) 笑を含む時顔に出来る凹み。

えぐる

剝(他動四段) 突き込んで廻す。

えぐし

酸(形。形状言ク活) あくづよきものを食ひたる時に起る喉のいら／＼するやうの味。

えやみ

疫(名) 「一」流行病。●熱病。●時疫。●「二」病の名。瘡の一名。(和名抄)

えま

繪馬(名)

「一」神佛に奉納する馬の繪の額。……もとは生きたる馬を奉る代りにせし事。

えまひ

笑(名)

ふむ事。●に／＼顔。○萬葉「妹がゑまひ」夫木「花のゑまひ」

えまた

繪馬堂(名)

奉納の繪馬を掛け置く堂。

えまはし

(形。形状言シク活)

ゑましに同じ。(雅)

えまふ

笑(自動四段)

笑むに同じ。(古)

えまでん

繪馬殿(名)

繪馬堂に同じ。

えまき

繪卷(名)

繪卷物の畧。

えまきもの

繪卷物(名)

物語戰記等の繪に詞書をなし

の、類なり」八雲御抄に「芹の一名なり。若菜の小さきなほいへり」○萬葉「君がため山田の澤にゑぐつむ雪げの水に裳の裾ぬれ」

たる巻物。●繪卷。

あまし

笑(形。形狀言シク活) 打笑まるゝ有様。●にこ

くしたる。(雅)

あます

笑(他動四段) ふましむる。

衛府(名) 近衛、衛門、兵衛三府の總名。

えぶり

柄振(名) 長き柄の先に板を附けて土

なごさらへよする具。

あふのたち

衛府太刀(名) 衛府の武官の束帶

の時に佩く太刀。(圖)

あぶくろ

餌袋(名) 「一」古へ食物を入れて携へたる

袋。(圖)「二」鷹の餌を入れる

袋。「三」鳥の食ひたる餌を入

る。胎内の袋。

あふで

繪筆(名) 繪をかく筆。

あぶみ

繪踏(名) 耶蘇の繪像を踏む事。……踏繪を見

よ。

えこ

兄子(名) 總領の古名。●長男。●長子。

えこ

依怙(名) 偏頗。●偏愛。

あか

回向(名) 讀經念佛などして佛に手向

くる事。

えが

柄香爐(名) 香爐の一種。長き柄の



付きたるもの。(圖)

えこま

荏胡麻(名) 荏の實。◎形胡麻に似たる故の名。

えて

得手(名) 其人の手に得たる事。●殊に巧になし

得る事。●長所。

えてかて

得手勝手(名) 我儘。●利己主義。

えてんらく

越天樂。越殿樂(名) 雅樂の曲名。

えあはりせ

繪合(名) 遊戲の名。左右に組を分ち互に

繪を出だして優劣を競争するもの。判者を

えさ

餌(名) ふはに同じ。(俗)

えさ

會座(名) 佛事の座席。◎說法聽衆の座席。(佛敎)

えさし

餌差(名) 鷹の餌の鳥を差す人。●鳥差。

えき

易(名) 算木と筮竹さを用ひてする一種の占。支

えき

那の易經の原理によりてするもの。

えき

疫(名) 病の名。えやみ。

えき

驛(名) 「一」うまや。●宿場。「二」轉じて鐵道の

えき

停車場。

えき

液(名) しろ。

えき

益(名) 利益。●利得。●まうけ。

えき

延喜(名) 年號。ほんきの略。

えき

驛路(名) 驛より驛へ通ふ道路。

えきろのすず

驛路の鈴(名) 驛鈴に同じ。

えきち

ヤチヨウ

驛長(名) 「一」宿の長者。「二」停車場の長。

えきぬ

給絹(名) 絹布の一種。繪をかくに用ふる生絹。

えきたい

液體(名) 流動體に同じ。

えきれい

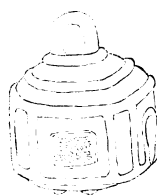
疫癘(名) 病の名。疫病に同じ。

えきれい

驛鈴(名) 古へ驛路の馬に官用の證として附けたる鈴。(圖)

えきてい

驛遞(名) 「一」宿驛にて繼ぎ立てて運搬する事。「二」驛遞局の略。



えきてい

驛遞局(名) 農商務省に屬して郵便電信等の事務を管理する役所。維新後設置せられ其後擴張して現今は遞信省となりたるもの。

えみ

笑(名) 笑む事。●笑ひ。●にこく顔。(雅)

えみがほ

笑顔(名) えみがほに同じ。

えみまく

(自動下二段) 大にこくになる。○宇治「講師ゑみまけてよしと思ひたり」

えみえみど

(副) にこく。○今物語「えみくこわ

えみさかゆ

笑榮(自動下二段) 笑顔よくする。●にこ

えみし

蝦夷(名) 蝦夷の古稱。又其人民。

えし

繪師(名) 繪をかくを業とする人。●畫工。

えし

(形・形狀言ク活) よしの古言。よろし。○紀「三

えじ

吉野の吉野の貼。貼こそは島邊もむき」

えじ

衛士(名) 衛門(後近衛) 衛士(後衛門)の二府に屬して禁闕を護衛する兵士。古は諸國

えしめ

軍團の兵より三年交替にて上京して勤めたるもの。夜は篝火を焚きて番を爲す。

えしめ

吉野(大和の山の名)の古名。(萬葉)

えしめ

會者定離(句) 會合するものは必ず

えしめ

離別するの意。(佛教)

えしめ

會釋(名) 辭儀。●挨拶。

えしめ

衛士府(名) 衛門府の舊稱。大寶年中より嵯峨

えしめ

天皇の時まで置かれたる官廳。

えしめ

會式(名) 日蓮宗にて行ふ十月十三日宗祖忌日

えしめ

の佛事。●御命講。

えしめ

餌食(名) 「一」飼ひ置く動物の食料。「二」轉じては猛獸などの食料。

えび

海老。蝦(名) (一)甲虫の一種。全身甲を着けたる

如く八本の足と二本の鬚とを有し水中に住むもの。(二)染色の名。葡萄酒。(三)又染色の名。伊勢海老に似て黒みを帯びたる赤色。

えび

衣被(名) 古代の香の名。梅檀にて作れるもの。

えびちや

海老茶(名) 染色の名。海老色がかりたる茶色。

えびかつら

海老葛(名) 草の名。葡萄酒の古名。(記)

えびぞめ

葡萄酒(名) 葡萄酒に染むる事。

えびつ

繪櫃(名) 古代甌弄物の名。彩色

えびら

繪をかきたる小櫃。(圖)

えびら

蠶(名) 武具の名。矢を盛りて青

えびら

貢ふもの。●やなぐひ。(圖)

えびら

蚕籠(名) 蚕を入れて飼ふ爲めの

えびか

浅き籠。

えびす

衣被香(名) えびに同じ。

えびす

夷。戎(名) (一)えみしに同じ。(二)野蠻人。

えびす

(三)外國人。(四)すべて普通と異なりたる

えびす

ものゝ稱。○「えびす膳」「えびす紙」「(五)

えびす

神の名。七福人の一つにて人生の福を守る

えびす

神。烏帽子狩衣にて左手に釣竿を持ち右手



えびすがみ

えびすがみ 夷紙(名) 福紙に同じ。

えびすうた

えびすうた 夷歌(名) ひなぶりに同じ。……日本紀に

えびすぐさ

えびすぐさ 夷曲と書きたるを古人の讀み誤りたるより

えびすぐすり

えびすぐすり 起れる詞。(古今序)

えびすか

えびすか 夷草(名) 草の名。芍薬の古名。

えびすか

えびすか 夷薬(名) 芍薬より製したる薬。又は其

えびすか

草。

えびすか

惠比須講(名) 商家にて商賈繁昌を祈るた

えびすか

め十月二十日に行ふ惠比須の祭。

えびすか

えびすか 夷弓(名) 支那の弓。(東鑑。太平記)

えびすか

えびすか 夷膳(名) 横向又は逆向に人の前に据ゑた

えびすか

る膳。

えびすか

繪装(名) 繪をかきたる装。○夫木「我妹子が

えびすか

もの引腰長き世をかけてぞ契るあかぬあま

えびすか

りに。

えびすか

繪元結(名) いれもとゆひに同じ。

えびすか

柄漏(名) 傘の柄を傳はりて雨の漏り来る事。

えびすか

衣紋(名) (一)衣服装束の紋模様。○續世繼此

えびすか

大將殿誠に衣紋をぞ好ませ給ひて。(二)衣

ゑもん

服の胸の合せ目。●襟。
衛門(名) 衛門府の略。

えもんども

衣紋留(名) 衣服の胸の合せ目を留め置くもの。

えもんかけ

衣紋掛(名) 衣服を脱ぎて掛け置く竿。

ゑもんふ

衛門府(名) 「一」兵衛と並び立ちて禁門を護衛する役所。左右あり。官吏は督、佐、(權)尉、志、府生あり、衛士之に屬す。……嵯峨天皇以前には衛士府と稱へたり。「二」嵯峨天皇以前の衛門府は以後の近衛府にあたる。

えもの

獲物(名) 漁獵して捕へ得たる鳥獸魚。

えもの

得物(名) 手に取る武器。●我得意とする武器。

えせ

(形) わるき。●卑しき。●拙き。●似て非なる。

えせもの

(名) 「一」心の拙き人。「二」身分の卑しき人。

ゑす

怨(他動サ變) ゑんすに同じ。

……(雅)

「えせ連歌」

○枕「えせかたち」同「えせさいはひ」宇治「えせ牛」源氏「えせ受領」建武間古記

